

板状の鉄斧



●コレクション・データ

時代 弥生時代 後期
調査 唐古・鍵遺跡 第40次調査
発見年 1990年
大きさ 長さ10.1cm、幅5.5cm
厚さ0.7cm、重さ98.1g
展示位置 第2室 「木器をつくる」

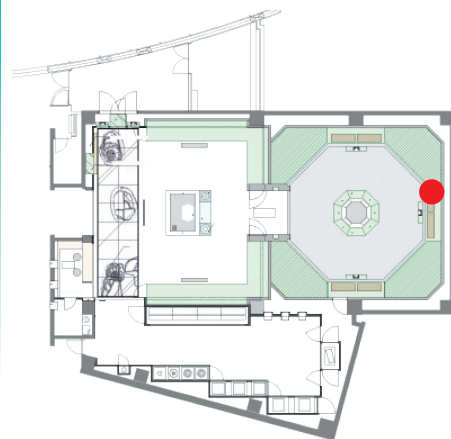
工具や農具の石器から鉄器への変
化は、木工や耕作の効率を飛躍的に
高め、技術史上、大きな画期とされ
ています。この石器から鉄器への移
行は、およそ弥生時代に始まりま
すが、地域によってその時期はまち
まちです。

今回は、唐古・鍵遺跡の弥生時代
末期の鉄斧を紹介し、その時期と状
況を考えます。

さて、弥生時代の鉄斧には、柄に
装着する部分がソケット状になって
いる「袋状鉄斧」と、斧の平面が
長方形の板状になった「板状鉄斧」
の2つのタイプがあります。唐古・
鍵遺跡の鉄斧は、全面が錆びで覆わ
れていますが、後者に当たり、瀬戸
内以東で独自に作られたタイプです。
また、斧には伐採用の「縦斧」と
加工用の「横斧」があり、大型の鉄
斧が「縦斧」に、小型の鉄斧が「横斧」
に対応すると言われています。今回
の資料は大型品と小型品の中間に当
りますが、横斧と考えると良いでしょ
う。

ところで日本列島では、北部九州
を中心に鉄器の使用が始まりました。
当初は朝鮮半島からの輸入品や、こ
れをリサイクルした再加工品がほと
んどですが、弥生時代中頃には輸入
した鉄素材を加工して鉄器の生産が
開始します。また、弥生時代の後半
には、瀬戸内以東にも鉄器が徐々に
普及しましたが、その出土量が少な
く、北部九州との間に大きな格差が
みられます。

唐古・鍵遺跡の状況も同様で、鉄
斧のほかヤリガンナなどほんの数点
の鉄器が出土しているのみで、石器
と比較するとほとんど皆無にちかい
状況です。しかし、鉄器の実物は無
くても出土した木器の加工痕から鉄
器の存在を裏付ける研究がなされて
おり、唐古・鍵遺跡の木製品にも鉄
器による加工痕が残っています。
このように近畿での鉄器の評価は
意見が分かれるところであり、唐古・
鍵遺跡の鉄斧もその一端を担ってい
ます。



ミュージアム上面図と展示位置